



# 石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和6年5月2日

第2号

## 始業式（4月8日） 式辞



校長 山田 美鈴

4月21日（日）に「照姫まつり」が盛大に開催されました。石神井中学校に赴任したことをきっかけとして初めて本会場となっている石神井公園に足を運びましたが、予想を遥かに上回る盛況ぶりに圧倒されました。

「照姫まつり」の由来は、私よりむしろこの石神井地域に古くからお住いの地域の方々の方が詳しいとは思いますが、室町時代の石神井城主豊島泰経と娘の照姫の伝説にちなんだお祭りで、練馬区では秋の「練馬まつり」と並ぶ二大祭りと言われているそうです。

本校「親父の会」の皆様がボランティア生徒にアドバイスをしてくださいながら、汗を拭いつつあっという間に担当ブースのフランクフルトが完売となりました。ご尽力くださいました「親父の会」の皆様、たいへんありがとございました。メインの2024照姫には本校の卒業生が抜擢されたとのこと。まさに地元ならではの親近感を感じることができました。

さて本校に着任して1か月。あらゆる教育活動が足早に過ぎていくようで、すべての出来事に思いを寄せていかなければ、自分が取り残されてしまうのでは？という焦りさえ感じられる、勢いある石神井中学校です。以下、今年度始業式（4月8日）の式辞でお話しした内容です。

私は3月25日の修了式、離任式の日に、前任校の生徒たちとお別れをしました。忘れられない一日となりましたが、なんとその日に孫が誕生しました。

この子は胎児のときにすでに心臓に疾患があることがわかっていました。皆さんも保健体育や理科の授業で習っているので知っていると思いますが、心臓は主に心房や心室といった4つの部屋に分かれています。その間に弁という扉の役目をしたものがあるために血流の調節や逆流しないようにしくみになっています。この孫はその弁がうまく機能しない「右室症単心室症」という病気であり、生後の様子を見ながら、今後何度も手術を繰り返すことになるようです。生後間もない赤ん坊なので、そんなことは何もわからないのですが、それでも一生懸命呼吸をし、ミルクを飲んで生きようとしています。

母体の中にいる間は母親の体に直結しているので、問題はないのですが、いよいよ生まれ出るタイミングで自分の心肺機能を働かせて呼吸し血液循環をしなければなりません。

生後間もなくから大きな鳴き声とともに、全身で呼吸し、搾乳したミルクを勢いよくごくごく飲む姿を見て、まだ数日しか経っていない孫の、たくましく生きようとする生命力に思わず感動の涙があふれてきました。

母親の指を握りしめることも、ミルクを飲むという動作さえも誰からも教わっていないのに、生きていこうとする生命力が、生まれたばかりの赤ん坊にもあるのだ！

そんな姿を目にして、出産した娘のほっとした気持ちと、これからどのように成長していくのだろうという不安が入り混じっていたように私には思えました。

今日初めて皆さんとこうしてお会いするときに、何を話そうかと悩みましたが、何より自分を大切にしてほしい、自分を好きになってほしい、そして自分の命を大切にしてほしい。そう思いました。

どんな人でも生まれてきたことに意味があるのです。すべてが尊い命です。これからたくさんの悩みや苦しみがあるかもしれませんが、自分一人で悩まずにぜひ周りの人に相談してください。私たち教職員も皆さんを全力で助けます。ぜひいろいろなことにチャレンジして、頑張ってください。